



クラシックカーなどの試乗体験や、福祉バザー、交通安全教室などのイベントが開催された「ふくし体験inこじまつり2015」。遊びながら道路標識を学べるコーナーやゆりえコーナーは大勢の子もたちでにぎわいました。5月10日(日)／とほろざわ自動車学校(東狭山ヶ丘) (写真：市民カメラマン・三平資郎)

みんなの



今回で39回目となる、「所沢市民吹奏楽団定期演奏会」。クラシックはもちろんのこと、演歌メロデーや大ヒットアニメーション映画「アナと雪の女王」のメロデーなどで会場は大盛り上がり！今回見に行けなかった方必見！「アナ雪」の演奏シーンが動画でご覧になれます。5月10日(日)／市民文化センターミュージズ (写真：市民カメラマン・津田資雄／動画：向・宮本博史)

ひろば



晴天に恵まれ絶好のお祭り日和に開催された「第4回戦国滝の城まつり」。祭りでは、甲冑に身を包んだ迫力ある武者行列や模擬合戦など、見ごたえ満載のイベントが多数行われ、大人から子どもまで幅広い世代の人々が歴史に触れながら祭りを楽しんでいました。5月17日(日)／滝の城跡・城山神社 (写真：市民カメラマン・西田慧正／動画：向・笠原政男)

スマホで動画！
アプリでARのある写真を写すと動画が見られます。
詳細は市HP(「AR」で検索)へ



▲中心市街地一帯で行われた「第21回とことこタワーまつり」。所沢で活躍する若手ミュージシャンによるステージや模擬店、「クイズdeチャリティ・ウォークラリー」など趣向を凝らしたイベントが行われ、クイズに参加した子どもたちは頭をひねりながら謎を解いていました。5月10日(日)／所沢駅西口～元町コミュニティ広場 (写真：市民カメラマン・浅見司郎)

突撃！ライオンズ特派員！

今回のレポーター！

亀岡晃伸さん(山口在住)
ファン歴：13年



野球にあまり関心のない家族に野球の面白さを知ってほしいと思い、応募しました。

今回の突撃先！



斉藤彰吾選手(背番号65/左投げ・左打ち)
埼玉県春日部共栄高校出身の26歳。平成19年高校生ドラフト7巡目で入団。昨シーズンは自己最多の89試合に出場し、今シーズンの外野手レギュラー争いに加わる活躍を披露。今後が期待される俊足巧打の外野手！

インタビュー「斉藤選手ってどんな人？」

ゴールデンウィーク9連戦の真っ最中。ベンチ裏から現れた斉藤選手は、練習で吹き出す汗もそのままにインタビューに応じてくれました。ドラフトでは、なかなか自分の名前が呼ばれず、半ば諦めかけていたとか。しかし、ドラフト7位で入団。日々の練習の末、試合活躍後の初めてのお立ち台から見た景色は忘れられないと言います。「やっぱり…嬉しかったですね。」自身の活躍はもちろんのこと、駆けつけてくれたファンに喜んでもらえることが嬉しい。そんな言葉にも聞こえました。



▲練習中の斉藤選手

「何事も楽しむ気持ちをもって取り組む。それが一番だと思います。社会人としての心掛けをそう表現した斉藤選手。プロ野球選手も社会人。辛いことは必ず起こる。そんな時にどれだけ楽しんできてやれるか。そうアドバイスをくれると、笑顔で戻っていきませう。

最終、言葉を選びながら、丁寧に答えてくれた斉藤選手。試合に向かっていくその後ろ姿は、これからのライオンズを引っ張っていく頼もしい若獅子そのものでした。

レポートを終えて

普段見せるプレーの熟さとは一味違う、斉藤選手のクールな一面を見ることができました。中学生の時に陸上部で全国大会の出場経験があるという斉藤選手の鍛えられた「走塁」にも注目したいです！

商業観光課 ☎2998-9155

はっぴつところ 野老っ子



今年4月、初代マチエコ大使に就任した東所沢在住の上田マリノさんをご紹介します。

東日本大震災後の社会の変化のなか、市を象徴する豊かなみどりを守り、将来に引き継ぐために策定した「マチごとエコタウン所沢構想」。その取り組みをさらに進めるため、各種イベントなどを中心に普及活動に取り組んでもらうのがマチエコ大使です。

上田さんはモデル、デザイナーで「環境意識を0から0.1へ」「エコをもっと楽しく」をモットーに、さまざまな環境啓発活動を行っています。

上田さんは武蔵野美術大学在学時、「いい物を作りたいと始めた作品づくりが、課題制作が終わるたびに作品をこみとして処分していた矛盾に気付いたことが環境やエコについて興味を持ったきっかけでした」と振り返ります。

在学中のファッションモデルの経験を活かし、エコイベントでの司会やイメージモデル、出版物への環境コラムの連載など、さまざまな場面でエコについてのメッセージを発信し、平成25年5月には資源エネルギー庁へ表敬訪問もしています。

最初に気付いた小さな矛盾。その小さなきっかけから徐々に環境開

心癒す「みどり」 中新井 小野寺 智子
「みどり」は私の人生の節目を彩る色です。結婚式をあげた神社の森の「みどり」。急な転勤で心細い私を迎えてくれた長野・戸隠の深い「みどり」。初めての子どもの描いてくれた母の顔の似顔絵、デパートに展示されたいた私の顔はなぜか「みどり」のクレヨンで元気がよく塗られていました。夏の強い日差しをさえぎるケヤキの「みどり」が所沢に転居した私たちを迎えてくれました。そして、これから永遠の眠りにつく岩手の晴山から見渡す「みどり」はいつの時代も私の心を癒してくれる風景を描いてくれます。

初代マチエコ大使！エコをもっと楽しく♪

上田 マリノさん(東所沢在住)

題へ意識を向けていった上田さんは「エコ意識の大切さは皆さんが持っています。すでにエコ活動をしている方もいれば、エコに対して大切だという気持ちはあるけど何から始めればいいのかわからないという方もいます。その両者の架け橋として、また、市民の皆さんにエコに対する“きっかけ”を持っていただくためのエコの案内人として、皆さんと一緒に勉強をしながら、所沢市のエコ活動を進めていきたいです」と語ります。

私たちの日々の生活の中で、環境やエコについて考えるきっかけは見逃しているだけでずっと身近にあるはず。そのきっかけを上田さんと一緒に見つけてみませんか？「エコって楽しい！」と感じる瞬間はすぐそこかもしれません。マチエコ大使についての問い合わせは、環境政策課 ☎2998-9133まで。

▶今年5月のエコまつりの様子。スマホをかざすと動画で上田さんからのメッセージがご覧になれます。



▲AR機能で動画を見られる様子

新緑を縫って 山口 満子
寒々としていた庭の柿の木から芽吹いた若葉が、気付けば、あれよ、あれよという間にきれいな新緑の葉を上げてきました。イチヨウの葉も競って芽を出し、今ではたくさんの緑の葉が光に当たって淡い色の花びらをつけていた満開の桜も葉桜となり、新緑の並木の下を歩くとときや、西武球場の若葉の道を通るとき、なんだか青春に戻ったような甘酸っぱい気持ちになります。そんな私を亡夫が笑っているような気がし思わず私はクスッと笑ってしまいました。

地域の絆 やっぱり自治会・町内会でしょ！13

ご近所同士で力を合わせ、さまざまな課題解決や地域の絆づくりを行っている自治会・町内会をご紹介します。

郊外マンション自治会

～地域のコミュニケーションの大切さ～ 郊外マンション自治会
郊外マンション自治会は、所沢市北部、神楽金ののどかな田園風景の中にあり「住み続けたいマンション」を目指して現在303世帯で活動している自治会です。

今年の4月まで会長を務めていた松田順子さんは「役員をやるまでは自治会は他人事だと思っていましたが、やってみて楽しいところも大変なところも見えてきました」と語り

ます。住民や他の自治会で「何かあったら何でも言ってくれよ」と声を掛けてくださる方や、汗だくになりながら行事の準備をお手伝いしてくださる方がいて、地域の皆さんとのコミュニケーションの大切さを身をもって知ることができたそうです。

どんな行事でも、準備から片付けまで、住民同士のだんらんの間としてみんなで楽しくやることを一番に心掛けてきました。最大のイベントはマンション全11棟の住民が参加する夏祭りです。昨年はハワイアンをテーマに、南の島をイメージしたステージでは、恒例のカラオケ大会や、大人も子どももみんなでAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」を踊ったエンディングで盛り上がりしました。

今後は、任期中になかなか手を付けられなかった自治会内の福祉や防犯について、「ゆるボラ(ゆるいボランティア)」として取り組んでいきたいと語るの、会長を補佐してきた副会長の一人、前原桃枝さん。お二人とも「任期満了後も、いつまでも安心して暮らせる郊外マンションになるようにお手伝いをしたい」と語ってくれました。

富岡地区の活動にも積極的に参加し、区内18の自治会が参加した昨年の地区体育祭では、年代を超えた団結力を発揮し、子ども会応援合戦で優勝に輝きました。今年は鮮やかなピンクの自治会応援団旗を新調し、郊外マンション自治会はさらに盛り上がっています。

▲優勝した子ども会応援合戦
「次回は小手指地区の小手指第6区を紹介します。」
地域づくり推進課 ☎2998-9083